

# 平成 24 年度事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日－平成 25 年 3 月 31 日)

## I. 会員数 (平成 25 年 3 月 31 日)

### (1) 名誉会員

平成 24 年 3 月 31 日会員数	5 名
平成 24 年度物故者	1 名
名誉会員現在数	4 名 (1 名減)

### (2) 正会員

平成 24 年 3 月 31 日会員数	1,140 名
平成 24 年度新入会員数	126 名
平成 24 年度退会者数	134 名
内訳希望退会者	130 名
物故者	4 名
正会員現在数	1,132 名 (8 名減)

### (3) 維持会員

平成 24 年 3 月 31 日維持会員数	93 社
平成 24 年度入会社数	1 社
平成 24 年度退会社数	3 社
維持会員現在数	91 社 (2 社減)

## II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	20 冊
	正会員	1,015 冊
	維持会員	942 冊
	小計	1,985 冊
国外	正会員	8 冊
(2) 販売数		180 冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	11	44 冊
	48	59 冊
国外		
	小計	103 冊
合計機関誌送本数		2,268 冊 (1,742 冊減)

(4) その他

機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。

III. 第59回通常総会

開催年月日：平成24年5月24日

開催場所：別府国際コンベンションセンター

IV. 理事会および理事評議員懇談会

(1) 理事会 3回開催

第1回 開催年月日：平成24年5月23日

開催場所：別府国際コンベンションセンター

第2回 開催年月日：平成24年11月16日

開催場所：中央大学駿河台記念館

第3回 開催年月日：平成25年3月25日

開催場所：書面決議

(2) 理事評議員懇談会 1回開催

開催年月日：平成24年5月23日

開催場所：別府国際コンベンションセンター

V. 定期学術集会の開催

第59回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期：平成24年5月24日(木)～26日(土)

会場：別府国際コンベンションセンター

会長：浦野 徹(熊本大学生命科学研究・支援センター)

参加者：1300名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成23年4月1日	61	2	
平成23年5月1日	61	3	サブリメント号(電子配信)
平成23年7月1日	61	4	
平成23年10月1日	61	5	
平成24年1月1日	62	1	

## VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第24回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞 (2名)

朱宮正剛

西村正彦

2) 安東・田嶋賞 (1名)

岩倉洋一郎 (東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター)

「発生工学手法による疾患モデルの作製と発症機構の解析」

3) 奨励賞 (1名)

竹尾 透 (熊本大学生命資源研究・支援センター)

「C57BL/6 マウス精子の凍結保存に関する研究」

4) 2011年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (2編)

庫本高志、桑村 充、田上 史、真下知士、能勢真人、芹川忠夫

「ENU ミュータジェネシス由来の Kyoto rhino ラットは先天性脱毛と巣状系球体硬化症を示す」

奥村 仁、宮坂勇輝、森田由香、野村智幸、三嶋行雄、高橋 姿、木南 凌

「*Bcl11b* ヘテロ遺伝子型はマウスに加齢性難聴と蝸牛外有毛細胞の変性をもたらす」

(2) 2011年および2010年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2011年受賞者 (7名)

中国 : Xu Lili

台湾 : Ming-Hong Lin

韓国 : Eui Suk Jeong

マレーシア : Hafandi bin Ahmad

フィリピン : Frances Margarete Tamayo

シンガポール : Shih Wee Seow

タイ : Panan Suntornsaratoon

2010年受賞者 (3名)

マレーシア : Nur Hidayu Mazlan

フィリピン : Laarni T. Tuason

シンガポール : Ho Saey Tuan Barnabas

## VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育

研修委員会、実験動物管理者研修制度ワーキンググループ、動物アレルギー検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

#### IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会と学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) およびアジア実験動物学会連合 (AFLAS) の事業に協力した。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センターの活動に協力した。

#### X. その他

- (1) 平成 24 年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)  
「基調講演：腸内フローラの今日的な世界」、「安全性試験の潮流」、「災害と実験動物施設 一地震、津波、原発被害と実験動物施設について」  
平成 24 年 11 月 16 日、中央大学駿河台記念館、参加者：54 名
- (2) 第 1 回実験動物科学シンポジウム (第 6 回ラットリソース・リサーチ研究会との共同開催) を開催した。(学術集会委員会担当)  
プログラム：「疾患モデル」  
平成 25 年 2 月 1 日、京都大学百周年時計台記念館国際ホール、参加者：130 名
- (3) 第 59 回総会期間中に特別ワークショップおよび 4 つの LAS セミナー (火の国セミナー) を開催した。(教育研修委員会担当)
  - ① 特別ワークショップ「3Rs：人道的な実験技術の原理」(参加者：326 名)
  - ② 生殖工学 (参加者：123 名)
  - ③ 麻酔学 (参加者：110 名)
  - ④ 動物福祉学 (参加者：282 名)
  - ⑤ 微生物学 (参加者：60 名)